



機体管理のスペシャリスト

About
Aircraft Mechanics 航空整備士とは

機体のメンテナンスや修理、離着陸の誘導等を担当します。フライト中は、航空機に搭乗して機体に異常がないかチェックします。また、ヘリコプターではホイスト(吊上装置)を操作し、吊上救助を行います。

情報を伝えるスペシャリスト

About
Aircraft Communicators 航空通信士とは

通信機器の操作やメンテナンスを担当します。フライト中は、航空機と航空基地・巡視船等との相互通信を行います。また、レーダー等を駆使し、遭難者や不審事象を素早く発見します。



受験資格

※試験日程等の詳細はホームページをご確認ください。

海上保安大学校

【本科】

- ①試験年度の4月1日に〈高等学校・中等教育学校〉を卒業した日の翌日から起算して2年を経過していない者及び試験年度の3月までに〈高等学校・中等教育学校〉を卒業する見込みの者。
- ②試験年度の4月1日に高等専門学校の第3学年の課程を修了した日の翌日から起算して2年を経過していない者など人事院が上記①に掲げる者と同等の資格があると認める者

【初任科】

- ①試験年度の4月2日以降において30歳以下の者で、大学(短期大学を除く。以下同じ。)を卒業した者及び試験年度の3月までに大学を卒業する見込みの者
- ②人事院が上記①と同等の資格があると認める者

本科



初任科



海上保安学校 ※()は10月採用試験の場合。

- ①試験年度の4月1日に〈高等学校・中等教育学校〉を卒業した日の翌日から起算して12年(13年)を経過していない者及び試験年度の3月(9月)までに〈高等学校・中等教育学校〉を卒業する見込みの者。
- ②試験年度の4月1日に高等専門学校の第3学年の課程を修了した日の翌日から起算して12年(13年)を経過していない者など人事院が上記①に掲げる者と同等の資格があると認める者

4月採用



10月採用



【問合せ先】海上保安庁総務部教育訓練管理官付試験募集係 Tel:03-3580-0936

海上保安学校門司分校

採用日に国家公務員法に定める定年に達していない者で高等学校を卒業した者・これに相当する学歴を有し、受験時において有効な次の免許を有する者。

【整備】国土交通大臣が交付した飛行機又は回転翼航空機の航空整備士又は航空運航整備士の技能証明を有する者。(採用日までに資格取得見込みの者を含む。)

【航空通信】航空無線通信士又は第一級、第二級総合無線通信士の資格を有する者。(採用日までに資格取得見込みの者を含む。)



【問合せ先】海上保安庁総務部人事課任用係 Tel:03-3591-6361

海上保安官を目指す方々へ! ~充実のコンテンツで受験生の知りたいをサポート~



採用情報のポータルサイトとして
採用ホームページ



タイムリーな情報を提供
X



リアルタイムで質問もできる
WEB説明会



知られざる海上保安官の姿も
Instagram



様々の情報をわかりやすく
YouTube



《お問合せ先》
海上保安庁 総務部 教育訓練管理官
TEL:03-3580-0936

海上保安庁 学生募集

検索

海上保安庁
HPはこちら



機体管理のスペシャリスト

海上保安庁

航空整備士・航空通信士募集



情報を伝えるスペシャリスト

航空整備士・航空通信士の業務紹介〈共通〉

フライト前後のミーティング

フライト前後には搭乗する乗組員が集合し、注意事項や周知事項等を共有します。全員が目的や手法を共有することで、事故を防止するだけでなく、より円滑に業務を遂行することができます。



訓練

航空整備士はホイスト（吊上装置）操作の慣熟訓練等を行います。航空通信士はレーダー等の機能を最大限に発揮するために日頃からその特性や操作方法を反復訓練し、習得します。



資格取得の勉強

航空整備士、航空通信士として必要な知識の習得のため勉強します。また、自身のステップアップのために、より上級の資格取得を目指します。



航空整備士の業務

毎日安全に業務を遂行するため。



機体整備

日常的な点検やメンテナンスはもちろんのこと、不具合による故障修理を行います。普段から機体の状況を把握し、些細な違和感も見逃しません。



整備管理

膨大な部品の管理や法定書類の整理、機体ごとの整備スケジュールの管理を行い、機体整備の土台を支えます。



地上支援

機体を格納庫から搬出入したり、フライト前後の機体を誘導したりします。事故が発生しないよう、正確な誘導を行います。



機上整備

フライト中の機体に搭乗し、機器類が正常に作動しているか常にチェックしています。不具合があれば直ちに対応にあたり、フライト中の事故を防止します。



ホイスト操作

ヘリコプターにあるホイスト（吊上装置）を操作し、要救助者等を吊上救助します。無事に救助できた時は、この上ない喜びとやりがいを感じます。



航空通信士の業務

確実な通信支援を行うため。



航空基地や船舶との通信

入手した情報を無線により航空基地や巡視船に報告したり、航空基地や巡視船から受けた情報を機長に報告し、現場に急行します。



レーダー等の操作

船舶の動静把握等に欠かせないレーダーや高性能カメラ等の機器を操作し、海域の情報を収集します。フライト中は、不審事象を見逃さないという信念をもって任務にあたっています。



通信機器の整備

無線装置やレーダー等の機器のメンテナンスを行い、いつ発生するか分からない事件・事故への出動に備えます。



フライト後のデータ整理

今後の業務に必要な時に必要なデータが使用できるよう、フライト中に収集した膨大なデータを整理し、管理します。一見地味に見えますが、海上保安業務を支える重要な作業です。



整備管理

膨大な部品の管理や法定書類の整理や整備スケジュールの管理等を行い、通信機器整備の土台を支えます。



Power of Dream

夢に向かい、仲間とともに任務に励む先輩からのメッセージ！



目標は一等航空整備士の資格を取得することです！

配属先／北九州航空基地 整備士
（海上保安学校門司分校 船舶職員等初任者課程卒業）
座右の銘：探究心、ダブルチェック
【学校での思い出】
今まで経験したことがない環境の中、学ぶことが全てが新鮮で楽しかったこと。

大学時代の就職活動中に海上保安庁の航空整備士の募集を知り、海上保安庁の航空整備士になりたいと思い入行しました。現在は北九州航空基地にて、航空機における保守・整備作業、主にセスナ172Sという機体の整備担当をしています。航空機の不具合が直った時や耐久証明検査を終えた後など自分の行った作業で成果が出るので、その都度成長を感じることができ、それがやりがいにつながっています。実際入庁をして、フライトから帰ってくる機上整備員の先輩方は知識も経験も豊富でとても憧れます。先輩から教わった「探究心」で何故こうなのか何事にも興味を持つことを心がけ、一等航空整備士の資格取得を目指しています。

何でも話せる仲間と、責任感のある仕事が好き！

配属先／鹿児島航空基地 整備士
（海上保安学校船舶運航システム課程 主計コース卒業）
座右の銘：知ったかぶりをしてほしくない
【学校での思い出】
卒業前の授業で調理したフランス料理フルコースの味は今でも覚えています。

当初、主計コースを専攻していましたが、海上保安学校での乗船実習で船酔いを経験し断念。航空整備士の道があることを知り、今の職種に就きました。現在は航空整備士として航空機の整備作業、機体に搭乗して行う海上保安業務、整備や品質管理の事務仕事等を行っています。海上保安庁の業務の中でも機体に搭乗しホイストマンとして救難業務に携わった時は、非常にやりがいを感じました。人の命に携わる責任のある仕事であるため、わからないこと不安なことは必ず聞き、普段からいるいるな人とのコミュニケーションをとることを大切にしています。女性も働きやすい環境も整っています。ぜひ楽しく一緒に働きませんか？

培った技術と知識を活かし体力の続く限り現場で勝負！

配属先／鹿児島航空基地 整備士
（海上保安学校船舶運航システム課程 機関コース卒業）
座右の銘：For Others
【学校での思い出】
きつかった遠泳。3マイル（約5.5km）も泳ぐなんて無理だと思った。

私が入庁したきっかけは、沿岸で海上保安庁の巡視船を見かけた際、クルーがとても楽しそうに仕事をしている現場を見て面白そうな職場だと思ったのがきっかけでした。航空機を運航して行う海上保安業務はパイロット、航空通信士、航空探照レーダー士、航空整備士など複数のパートがワンチームとなり業務を行なうため、普段から雰囲気づくりを大事にしており、「人のために」=“For Others”をモットーに常にチームに感謝し業務にあたっています。普段の業務の他、資格取得の勉強など大変なことは多いですが、整備士という仕事は技術と知識を活かし長く現場で働くことができる職種という魅力のひとつです。皆さん是非、チャレンジしてみてください！

先輩方の丁寧な指導のもと海上保安官として成長する日々

配属先／鹿児島航空基地 通信士
（海上保安学校情報システム課程卒業）
座右の銘：短く・簡潔に・わかりやすく
【学校での思い出】
2年間の寮生活全てです！仲間達と、とても濃い関係性を築けた貴重な時間でした。

現在は鹿児島航空基地にて航空通信士として3年目を迎え、機体通信機器の操作や整備、フライトの際には、機体に搭乗し基地や巡視船等と通信等を行う警備救難業務に従事しています。航空基地の通信士はメモを取ったりカメラを撮影したり足で無線を出したりとやる事が多く、中でも「短く簡潔にわかりやすく」伝えないといけないので、大変ですが達成感とやりがいを感じられる職場です。入庁前は「船に乗るんだらうな」というイメージでしたが、実際は陸上や船舶、航空など様々な現場でいろいろな業務を経験します。また、現場の先輩方から仕事を効率よく行う進め方など、丁寧に教えてもらえるので、海上保安官としての成長を日々感じています。

公私をバランスよく両立できるとも良い職場環境です

配属先／北九州航空基地 通信士
（海上保安学校情報システム課程卒業/特修科 修了）
座右の銘：現場の情報を的確に
【学校での思い出】
規則正しい寮生活。厳しい環境でしたが自分が成長できる充実した2年間でした。

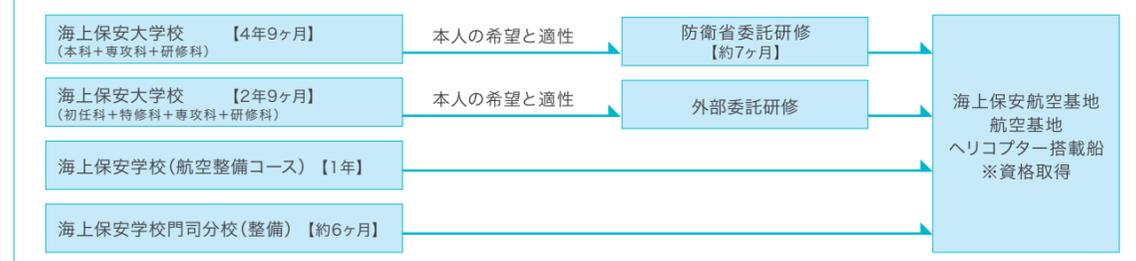
北九州航空基地にて航空通信士・探照レーダー士として船舶等の捜索や調査を行っています。航空基地では、機体やクルーが安全に業務を行うため、フライト前のブリーフィングや複数人での整備作業等、平日頃からコミュニケーションを取り合い業務にあたっています。また現場の状況を的確に伝えられるような通信の仕方を心がけています。機体に搭乗すれば外国船などの通信や高性能カメラ等の操作、基地に戻れば事務作業のほかに機体整備作業等様々な業務があります。多忙ではありますが、海上保安官は公務員でもあるので、基地でも育児休暇をとる職員も多くおり、公私をバランスよく両立できるとも良い職場環境です。

任務を成功に導く為にはコミュニケーションが大切です！

配属先／北九州航空基地 通信士・探照レーダー士
（海上保安学校情報システム課程卒業）
座右の銘：準備8割、現場2割
【学校での思い出】
一般社会では築けないような深い絆ができたこと。今でも交流があります。

航空通信士・探照レーダー士は、地上での無線機器のメンテナンス業務の他に、すべての起点になる通信支援（無線を使い地上の通信士と情報を伝え合うこと）を行います。短い言葉で情報を伝えなければならないため、普段からいろいろな方とコミュニケーションをとり、クルーによって対応を変えるなど、任務を成功させるために臨機応変な対応を心がけています。また何をしてもなぜ必要か？もっと良い方法はないか？を考えながら、万全の準備で仕事に臨んでいます。海上保安庁にはいろいろな方がいて、常にワンチームで業務を行なうため、自分の努力が仲間達からの信頼となって返ってくる非常にやりがいのある仕事です。

【航空整備士のキャリアパス】



【航空通信士のキャリアパス】

